

令和5年度 第1回蕨市地域福祉計画等策定懇談会 会議概要

開催日時	令和5年10月10日（火） 14:00～
開催場所	蕨市役所新庁舎4階 大会議室
出席者	菅野 道生（会長） 佐藤 政美（副会長） 花村 奈生子 庄野 孝子 島崎 利行 浅川 奈穂 鈴木 幸義 安藤 正子 平山 厚子 山本 昭三 植田 富美子 新保 和生 平井 則明 松原 由紀恵
事務局	根津（健康福祉部長） 國井（健康福祉部次長兼福祉総務課長） 大重（福祉総務課） 向田（福祉総務課） 萩原（蕨市社会福祉協議会事務局次長） 武智（蕨市社会福祉協議会地域福祉課） 小林（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所） 藤平（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委嘱状交付 3. 蕨市長挨拶 4. 蕨市社会福祉協議会会長挨拶 5. 委員・事務局職員の紹介 6. 会長及び副会長の選出 7. 会長挨拶 8. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 策定懇談会の公開について (2) 地域福祉計画等の策定概要について (3) 住民アンケート、団体ヒアリング、地域懇談会の実施について (4) その他 9. 閉 会

(議事)

1. 開 会	
2. 委嘱状交付	
3. 蕨市長挨拶	
4. 蕨市社会福祉協議会会長挨拶	
5. 委員・事務局職員の紹介	
6. 会長及び副会長の選出	会長に菅野道生委員、副会長に佐藤政美委員が選任される。
7. 会長挨拶	
8. 議題	
会 長	さっそく、本日の議題に入ります。「(1) 策定懇談会の公開について」ということで、事務局より説明をお願いします。
事 務 局	(「資料 蕨市地域福祉計画等策定懇談会の会議の傍聴にかかる取り決め (案)」に基づき説明)
会 長	会議公開の取り扱いについて説明がありましたが、よろしいでしょうか。
委 員 一 同	—— 異議なし ——
会 長	では、会議の公開については、資料のとおりとしたいと思います。 なお、傍聴人の人数についてですが、会場の広さなどを考慮して2名とさせていただきますと考えておりますが、こちらについてもよろしいでしょうか。
委 員 一 同	—— 異議なし ——
会 長	本日、傍聴希望者はいらっしゃいませんので、このまま進めたいと思います。 次に「(2) 地域福祉計画等の策定概要について」事務局より説明をお願いします。
事 務 局	(「資料3 蕨市地域福祉計画等策定に向けた基礎資料」に基づき説明)
会 長	ただ今の説明について、ご質問、ご意見等をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。 この後、住民アンケートとヒアリングについての説明もあるので、その後、全体で感想、質問も含めてご意見いただければと思います。ただ今の説明については、ひとまずお認めいただいたということにして、次の議題に移り、その後少し意見交換、質問を含めて進めたいと思います。 それでは「(3) 住民アンケート、団体ヒアリング、地域懇談会の実施について」事務局からポイントを絞って説明をお願いします。
事 務 局	(「資料4 住民意識調査、団体ヒアリング、地域懇談会の実施について」に基づき説明)
会 長	策定の考え方、進め方、住民アンケートや団体ヒアリング調査等、懇談会を含め

(議事)

事務局	<p>て計画策定に向けた様々な声を集める方法について、ご説明いただきました。</p> <p>今日は策定懇談会ですので、懇談ということで進めていきたいと思えます。お集まりの皆さん、それぞれ地域で様々な分野で活躍されていらっしゃる方ですので、ただ今の説明に関するご質問、ご意見、こういったものは特に思い浮かばないという場合は、それぞれ、今、地域での暮らしや活動の中で感じていることや、見ていること等を少し話題提供いただければと思います。あるいは、地域福祉計画策定に関して、何かアドバイスをいただければありがたいと思えます。全員からご発言いただきたいと思えますので、少し質問を考えていただく間に、私から1点質問をさせていただきます。</p> <p>非常に、緻密に進められていく様子が分かったと思えます。一方で、地域福祉計画ですので、いかに多様な地域住民の声を反映させるかということが非常に重要で、こういった蕨市の地域特性を考えた場合、外国籍の、あるいは外国にルーツを持つ住民の方が人口の1割を占めているわけです。そういった住民の皆さんも当然、この地域福祉計画の策定に当たっては、意見を反映させていく重要な方々です。そういう意味では、アンケートは日本語のみになっています。団体ヒアリングでは、日本語ボランティアの皆さんへのヒアリングも入っているようですが、外国籍の住民の皆さんの意見を聞くという工夫は何か特別ありますか。</p> <p>外国籍の方に対するアンケート調査での配慮については、事務局でもどのように進めていくかを協議しているところです。対応方法は様々あるのですが、例えば、現状の調査票にルビを付けて読みやすくするとか、外国人の方でもある程度分かるように、やさしい日本語、表現で実施するなど、そういったところもあります。</p> <p>一方で、多言語化した調査票を配るのはなかなか対応も難しいところがありますので、どのような形で配慮するかが非常に悩ましいです。WEB 調査も今回行うので、それを翻訳しながら答えていただけるようお願いを凶っていくというところもありますので、現時点で、まだどういう方向性で進めていくかは明確には決まっています。他の自治体でもそういった対応をされていますので、それらも見ながら検討していきたいと思っております。</p>
会長	<p>56カ国くらいの国籍の方がお住まいということですから、全てに対応するのは不可能だと思えます。合理的な部分でどこまで配慮できるかというところを検討していくということになるかと思えます。よろしくお願ひします。</p> <p>では、各委員より、ご発話いただければと思えます。</p>
委員	<p>成年後見について、いろいろな外国籍の方がいらっしゃるということですが、障害者であったり、高齢者であって、判断能力が低下している方も、アンケートに回答していただけるといいのかなと思えますので、そういった方々でも回答しやすいようなアンケート用紙であったり、アンケート方法があればより良いと思えました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ご意見については、逐一回答いただいていると時間がなくなってしまうので、質問については事務局からの回答を求めますが、ご意見、ご感想についてはそのまま進めていきたいと思えます。今、判断能力が不十分な方々の意見をどう反映させるか、非常に重要な論点をいただいたと思えます。</p>
委員	<p>地域の一員として、地域の中で活動しています。困難を抱えた方で、自分から手を挙げて訴えられる方はいいのですが、そうではない方がたくさんいらっしゃいます。普段の関わりの中で、そういう方たちの声を察して行政や関係機関につなげていくというのが私たちの職務です。今回、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一緒に計画を立てていくということは、私たちにとってもいいことだと思えます。先ほ</p>

(議事)

委員	<p>どの外国籍の方の問題ですが、お子さんがいる方は町会にも加入していただいておりますが、アパートの場合は町会への加入も少ないですし、そういった意味で、みんなまで幸せになれるというにはちょっとほど遠い状態かなというのは感じております。そういうことも含めて、この懇談会で皆さんと話し合っていけたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>説明はよく分かったのですが、まだ納得していないところもあるので、帰ってもっと勉強しないと、皆さんにアンケートを書いてとか何してとかというのはなかなか難しいので、もう少し一生懸命、読み返して勉強してきますので、申し訳ありません。よろしくお願いします。</p> <p>丁寧な説明ありがとうございました。幾つか感想を含めて、意見を要約して述べたいと思います。ライフステージを見通した障害者支援のために、いろいろな連携が重要だと言われております。非常に身近な問題として、子どもから高齢者まで、いかに地域で安心して住み続けられているかと、非常にリンクする地域福祉というテーマだったので、興味深く聞かせていただくのと同時に、今、保育園・幼稚園等、地域のいろいろな場所で、ややお困り感を持っているADHDといわれるようなお子さんや、なかなか社会性に困難、他者と上手にコミュニケーションを取れない子が多数存在していて、その子たちが、まかり間違えば、不適切な関わりによって犯罪を冒すという触法障害者の問題もあるので、地域福祉は重要なことだと改めて感じました。</p> <p>意見としては、支援者側の視点ではなくて、障害をお持ちのご家族や障害を持っている方自身の当事者性が非常に重要視されています。このアンケート自体も、障害をお持ちの方が読んで答えるということが想定されるので、外国人と共通していて、ルビを振るとか分かりやすい表現にする。彼らが答えやすい、自分が意見を言えるということはずごく大事なことで、私も共感するところです。</p> <p>もう1つは、アンケートの中身で、児童福祉の分野で、児童発達支援事業所などに関わるご家族がこれを見たときに、関わっている所の名前がないということで、疎外意識を持ってしまわないかということが心配です。例えば、学校、幼稚園、保育所、児童発達支援事業所とか、そういうことも必要だし、8ページの問29では、障害を持つ学童の子が行く「放課後等デイサービス」があるので、それらを羅列したり、8番だったら、「ケアマネジャー、ホームヘルパー」という高齢者の分野ですが、障害者の分野だと、社協にある基幹相談支援センターが非常に重要な役割を果たしているのでも、「相談員」とか身近に関わっている人のイメージを持ちやすい項目を入れてはどうかと思います。問31だったら、「保育や療育サービス」なども入れたらどうかと思いました。ただし、このアンケートは宣伝的な効果もあるので、成年後見制度が何かということを書いているのはずごく良い点だと思います。</p> <p>問29の14番に「病院・施設」とありますが、この施設が何を指しているのか分かりません。最後に、懇談会、この地域でやっていくワークショップは、アンケートと同時にとても重要なことです。一番身近に接していらっしゃるキーマンの方たちに意見を聞く機会の工夫はずごく重要なところで、いいことだと思います。</p>
会長	<p>アンケートの修正意見については、できる範囲で検討していくということになると思います。50問と多いので、設問と回答の選択肢についても、できる範囲でブラッシュアップすることになると思います。</p>
委員	<p>アンケートについて、これが独居高齢者の方に届いたときに、まずこの量ができるのかというのが率直な疑問でした。想定する3,000人の中にどれだけ高齢者の方が選ばれて、なおかつ、1人で回答できる方というのは、正直、とても限られ</p>

(議事)

委員	<p>ていると思います。先ほどから出ている、障害者の方や成年後見制度を利用されている方々も同じ状況ではないでしょうか。私たちでも大変だと思う量なので、もう少しブラッシュアップしていくほうがいいと思いました。しかし、本当にいろいろな分野が横のつながりで、こういったいろいろな計画ができるというのは、蕨市の住民としてすごく大事なことで、2年の中でいいものができたらなと思います。</p>
委員	<p>私は再犯に関して非常に興味を持っておりまして、現在、犯罪件数は非常に少なくなっていますが、再犯はそれに反比例して増えています。この設問の中では、42、43、44がそれに当てはまる設問になっているのですが、これを見て一般の方が分かるのかなと感じました。42と43くらいは回答されるでしょうが、44に関してどれくらいの知識がある人が、どれくらいの理解を持って反応していただけるのか。素晴らしい意見が出るのであれば、ものすごくうれしいのですが、これは少し難しいと思います。1～12までありますが、そんなに数が多くなくてもいいですから、一般の人たちが、自分たちでも協力できるという部分を選んで書いていただけたらいいのかなと思います。</p>
委員	<p>皆さんが言っているアンケートのことが最初から気になっています。これがウェブでできるといっても、若い人はこんなにたくさんの文字は読まないだろうと感じますし、各年代に必要な意見を聞いたほうがいいとも思います。母子家庭の方と関わることがあるのですが、お母さんは忙しくて、職場と家庭を往復している方なので、母子家庭の声を拾いたいけれども、この量のアンケートだとどこまでできるかなというのを危惧しました。もっといい方法があるのではないかと感じました。</p>
委員	<p>時代によって求められているボランティアというのがすごく違ってきているような気がします。問23で「個人的にボランティア活動に参加したことがありますか」と尋ねられていますが、突っ込み方が足りない気がします。何が求められているかということが、大事かなという気がしています。ボランティアというのは、人のためにやっているようですが、最終的には自分の居場所づくりにつながっていくと思いますので、そういう意識付けみたいなものも必要だと思います。</p>
委員	<p>私もここに来て読んで、初めて知ったのですが、アンケートがかなり難しいなと思いました。これから勉強してやっていきますので、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>地域福祉計画等策定懇談会という名前を見たときに、少し遅いのではないかと感じましたが、地域福祉活動計画、蕨市成年後見制度基本計画、再犯防止推進計画の策定にあたるというのを、一度にこれを全部やっていくためのアンケートというのはとても大変だと思いました。アンケートやヒアリング、ワークショップをやって、2年間でまとめられるのかなという感じがします。</p>
委員	<p>少し気になったのは、アンケートの3ページ、問8の地域との関わりの中で、4の「お付き合いはほとんどない」というのを選択される方がいらっしやると思いますが、何らかの理由があってお付き合いをしていない方と自ら望んでされない方がいらっしやると思っています。年齢層にかかわらず、私は近所の方とお付き合いしませんと言われる方に対して、このアンケートが届いた場合、おそらく回答されないと思いますので、当然その方の意見は入ってきません。ただ、そういう方が福祉のサービスを使わないかというところではない。やはり使うと思います。そういうときに、そういう方の意見が入っていないので、福祉政策策定みたいなことをして、意見が落ちてしまうのはどうなのかなと思いました。</p> <p>それともう1点、資料3の5ページ、踏まえるべきポイントとして、最初に「SDGsの視点について」ありますが、これは今、はやっていて、何かにつけてSD</p>

(議事)

	<p>G sに絡めようという意見が多いですが、無理やり絡めなくてもいいと思います。何かしらに当てはめようとして、結果、無理やりになっているということはよく見受けられます。大々的にうたって、無理やり絡めるのもどうかと思いました。</p> <p>あと、アンケートの項目が多いという話がありましたので、ネットにつなげて、オペレーターの方につなげて、会話形式でアンケートに答えられるような仕組みがあったら楽なのかなと少し思いました。</p>
委員	<p>私もやはり、質問数が50というのは、とても多いと思います。ましてや細かい字で、お年寄りにはたぶん回答しないだろうし、ましてや一人住まいの方の回答は期待できないと思います。通常のアンケート、市で行った場合にはどの程度の回答率を求めているのか質問したいと思います。それと併せて、「避難行動要支援者支援制度」や「個別計画」、「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を聞いたことがあるか、知っているかどうかが大いに関係するのかなど、その辺も併せてお聞かせ願いたいと思います。</p>
会長	<p>いったい何のための設問なのか、どうしても必要なのか、この辺り精査して、切れるものは切っていくことによって、全体のボリュームを少しダウンしていくということが必要なのではないかという、非常に貴重なご意見です。ありがとうございます。先ほどの質問はまとめて、後ほど事務局からお願いします。</p>
委員	<p>問48に「民生委員・児童委員を知っていますか」とありますが、それ以上のことがないので、この設問は不要だと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。おおむね、アンケートの設計に関することについてのご意見、ご質問が多かったように思います。委員からは、どの程度の回収率を想定しているのかという質問がありましたので、それにお答えいただくと同時に、3,000人の抽出調査ですので、郵送とウェブですから、回答できる人たちは限られているわけで、これは正直、いかんともしがたい部分があると思います。アンケートの限界をどのようにフォローするか、それを考えていく必要があるというご意見だったと思います。アンケート自体のボリュームを少し少なくしていく工夫、そして、アンケートの限界をどういうふうにかバーアップしていく予定なのか、この辺り、想定される回収率の問題と併せて、事務局から簡単に回答願います。</p>
事務局	<p>回収率に関しましては、様々な分野で行政計画策定の際に意識調査などされますが、分野によって回収率の平均は変わってきます。地域福祉の分野では、おおむね4～5割くらいに落ち着くことが多い印象です。これが高齢者福祉に特化したような調査では、6～7割まで高まったりします。一方で、まちづくり全般の意識調査では3割台まで下がります。やはり、当事者性に関わるかどうかによって回収率は変わりますし、当然、手法によっても変わります。平均すると大体、4～5割くらいの間に収まるのではないかと思います。</p> <p>もう1点、この調査でカバーできる部分とそうでない部分という論点ですが、当然、私どももこのアンケート調査のみで全ての状況が把握できるとは考えにくいと認識しています。地域福祉計画の策定のプロセスで考えますと、量的な調査のほか、様々な定性的な調査ということで関連団体の方々にお話を伺う機会もあります。特にマイノリティと呼ばれる方々のご意見、実情に関しましては、むしろそういった定性調査でより実情に近い部分をお聞きできると考えております。また、いろいろな分野で行政計画を策定されていますので、当然、障害福祉の分野では障害福祉の調査をされていますし、高齢者福祉の分野では高齢者福祉の調査もされていますので、既存の行政計画策定の際に実施された調査の結果等も総合的に活用しながら、地域の全体像を把握していければと考えています。特に今回、蕨市で地域福祉分野</p>

(議事)

会長	<p>の調査が初めてなので、非常に網羅性が高い調査票を検討させていただいているところもあります。もう少し割愛できる部分を含めて検討していきたいと思えます。</p> <p>ありがとうございます。分野を特化しない、全市民を対象としたアンケートというのは、どうしても限界があるという意味では、出てきた結果自体を、そこに留意してアンケートの結果を読み、その上で計画を検討していく。そして、ヒアリング等を含めた、カバーするような部分も含めて総合的に見ていくということです。アンケートは数字なので、どうしても強く引っ張られてしましますが、見る際には注意をして、そういった限界がある方法であるということに十分留意してやっていくということが重要だということを改めて学んだやりとりだったと思います。</p> <p>他に質問はありませんか。特にないようであれば、議題（3）についてここまでにしたいと思います。</p> <p>最後に（4）その他として事務局から何かありましたらお願いします。</p>
事務局	(事務連絡)
会長	では、以上をもちまして、本日ご提案いただいている議題については、全て協議終了となります。ご協力いただきありがとうございました。
9. 閉会	